園長だより

NO 3　H27.6.26　　6月号

「雨の日の出来事」と「知恵」

先日、早朝には晴れていたのに、午前中に急に夕立のような雨が降りました。

ことり組さんは学園内をお散歩しておりましたが、緊急に小学校校舎内に避難をし、廊下を通り、園舎のすぐそばのドアのところまで移動しました。ドアから園舎までは３～４メーターぐらいです。連絡があり「皆で傘を持って迎えに行きましょう。」と、先生方が準備をしていましたが、外へ出て確認してみると３歳の子どもでも、しっかりと傘をもち歩ける強さでしたし、子どもの歩数にしたら２０歩弱ぐらいで園の軒下まで来れる距離でしたので、

「園の傘を人数分持って行ってあげて、子どもたちが自分で傘をさして園へ戻りましょう。そして自分で傘を閉じれるよう見守ってあげてください。」と、それぞれの場所に先生方を配置しました。

するとどうでしょう？子どもにとっては強い雨の中を自分一人で、しっかりと傘を握りしめしっかりとした足取りで園へ戻ることができました。そして誰も泣かずに、「靴はお外の下駄箱にはいっているの。」と、おすまし顔で雨に濡れてしまった靴を持ち、園庭にある下駄箱まで運び、先生に靴下がぬれていないか確認していただき、上靴に履き替えました。

「ほとんどの子が傘を自分でさし、閉じることもできました！」

と、お手伝いに入ってくださった先生が言っていました。保護者の皆様の、日々のご家庭でのご教育の賜物と感謝し、また感心いたしました。

子どもたちの実態を捉え、それに即した働きかけを心掛けていくことを考えさせられた、とても良い機会でした。

強い雨が傘に打ち付ける音を聞いて、子どもたちはきっと、自然に対する畏敬の念を感じたのでないかと思います。先生方がしっかりと見守る中でしたので安心ではありましたが、雨の打ち付ける音を上から聞いたときには驚いたと思います。もちろん「自然に対する畏敬の念」という言葉では認識できませんが、「自分で守る術」を感じ取り、感性としてとらえていたように思います。

地球温暖化が言われ、あちこちで自然災害が起こっている昨今、自然や天気はどうすることもできない状況が多いからこそ、「自分の身を守る術」や、自然・天気等によって思い通りにいかなかった時に「力を合わせ、工夫して乗り越える知恵」を、子どもたちに伝えていかなくてはならないなと思います。

先生のつぶやき　（年長宿泊保育場所へ下見に行ってきて）

A 先生「きっと子どもたちは、あんなにたくさん虫がいて大喜びだと思います。」
B 先生「虫かごや、虫取り網を持っていきましょう！今までにない活動ですよね！」
C 先生「夜にはそれぞれのコテージに天体望遠鏡があるのでこれも今までにないことで喜びますね！」
D 先生「コテージのベランダに甘いものを置いたらきっとカブトムシが来るかもしれませんね！」

（「子どもたちのため！」と知恵を合わせ、自然災害による年長宿泊保育場所変更にも「熱い」気持ちで工夫をし、子どもたちの喜ぶ顔が見たいと頑張っている先生方が夜遅くまで見られた６月でした。）